

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った顔面神経麻痺スコアやアンケート評価を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や顔面神経麻痺スコアやアンケート評価を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	慢性期顔面神経麻痺患者におけるボツリヌストキシン併用リハビリテーションの有用性 -FaCE Scale を用いた主観的評価による比較検討
研究機関名	愛媛大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 (職名) 助教 (氏名) 西原江里子
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2028年3月31日
対象となる方	2015年1月から2025年12月に当院で顔面神経麻痺の治療を受けた方のうち、発症後2年以上経過した慢性期顔面神経麻痺後遺症を有し、FaCE Scale による評価を受けた患者さん。
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、診断名、患側、発症年月日、顔面神経麻痺機能評価(顔面神経スコア)、ボツリヌストキシンの治療の有無、施行日、観察期間、主観的アンケート(FaCE Scale)の評価結果など
研究の概要 (目的・方法)	慢性期顔面神経麻痺では、病的共同運動や筋緊張亢進、拘縮などの後遺症により、長期にわたり生活の質(QOL)が低下することがあります。これらの後遺症に対しては顔面リハビリテーションが行われ、近年ではボツリヌストキシン治療を併用することもあります。その有効性については十分に明らかになっていません。本研究では、2015年1月から2025年12月までに当院で治療を受けた慢性期顔面神経麻痺患者さんを対象に、診療録および既存の評価結果を用いて、ボツリヌストキシン併用リハビリテーション群とリハビリテーション単独群のQOLの変化を比較検討します。本研究により、慢性期顔面神経麻痺後遺症に対するよ

	り効果的な治療法の確立につながることを期待されます。
個人情報の保護 について	この研究で収集される情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。 また、保管される情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 西原江里子 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5366